

「亀山市民大学キラリ」活動報告書の発刊によせて



亀山市長
櫻井 義之

市長ご挨拶

「亀山市民大学キラリ」2013年度活動報告書の発刊に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

近年の環境問題は、地球温暖化の防止や生物多様性の保全、エネルギー問題など、国際的な問題として取り上げられています。そのような中、昨年9月に気候変動における政府間パネル(IPCC)による第5次評価報告書第1作業部会報告書において、地球温暖化に対する人類の関与が95%以上など、人類にとって極めて厳しい報告がなされました。

このような環境問題は、人々の暮らしや通常の事業活動から生じる環境負荷が集積し生じるものであり、その解決のためには、人々のライフスタイルや事業を行う上でのビジネススタイルそのものを見直し、環境負荷の少ない持続可能なものへと変遷していくことが重要であり、行政の役割は、大変重要であると認識しております。

そのような中、本市においては平成25年度において、かめやま環境プラン(環境基本計画)の見直し及び亀山市民大学地球温暖化防止対策実行計画【区域施策編】の策定を行いました。とりわけ、かめやま環境プランでは、新たに重点的な取り組みとして、自然の有する多面的機能の発揮、ごみの減量化、省エネ・創エネの推進などの環境活動を掲げ、「幸せをつなぐ環境のまちふるさと亀山」

を目指して進めてまいります。

一方、亀山市民総合環境研究センターは、実践型シンクタンクとして、また、民産学官の連携により、地域ニーズに取り組む「地域圏型総合環境学」を構築、運営するセンターとして、「環境・文化・健康」をテーマとした亀山市民大学キラリの開講や特別講演会の開催、市内3中学校への環境出前講座など、様々な視点から多くの方に考える機会を提供いただいております。

この「環境・文化・健康」のテーマは、本市にとってまさにベストマッチであり、各々のテーマにおいて、市民が地域で活躍できる人材の育成にご尽力をいただいております。そこで学んでいただいた市民が、本市の未来に向け、魅力あるまちづくりを展開していく活動の一翼を担っていただいております。大変頼もしく感じております。くしくも、平成26年度は、これまで本市が培ってきた文化を見つめ、将来に繋げていくため、「かめやま文化年2014」に取り組むアクション・イヤーと位置づけしており、現在本市が進める地域医療再生への取り組みとあわせ、今後一層の連携、協働を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、活動報告の発刊に当たり、格別のご尽力を賜りました亀山市民総合環境研究センター 朴センター長をはじめ、関係者の皆様にお礼申し上げます。

キラリと輝く「亀山学」と「オールカメヤマポイント(AKP)」を成功させましょう



亀山市民総合環境研究センター長
亀山市民大学キラリ学長
三重大学理事・副学長

朴 恵淑

センター長ご挨拶

平成26年度から、環境意識の高い亀山市民の環境活動の見える化を図る手段として、「オールカメヤマポイント(AKP)」を構築し、運営することとなりました。平成17年1月に、亀山市の政策提案を行うシンクタンクとしての機能及び地域のリーダーを養成する人材プールとして亀山市民と市民、企業、NPO、大学との民産学連携によって発足された「亀山市民総合環境研究センター」は、多様な政策の提案をしてきましたが、「オールカメヤマポイント(AKP)」は、環境活動ヘインセンティブを与えることで、頑張る人が報われるシステムです。世界一の環境先進大学を目指す三重大学が開発した、環境活動の見える化を図るMIEUポイントのノウハウを亀山モデルとして発展させ、亀山市民の誰もが取り組める仕組みとなっているので、亀山市民の環境ムーブメントとなることを期待しております。

平成23年6月から環境・文化・健康(福祉)の3本柱を基軸とした生涯学習のプラットフォームとなる「亀山市民大学キラリ」を通じて、地域の人材育成に本格的に取り組んでいます。平成25年度の「亀山市民大学キラリ」は、13回の講座及び弓場徹三重大学教授による特別講演会(認知症非薬物療法の取り組み)、シャープ株式会社亀山環境安全推進センターとの協働による夏休み企画親子見学会や小中高校でのエネルギー環境教育の出前講座を実施し、延べ約1,000名以上の市民が参加するなど、大きな成果をあげました。環境分野においては、環境省が推進しているくらしのアドバイザーの資格取得者を育成し、また、三重県地球温暖化防止活動推進センターとの連携による地球温暖化防止活動推進員を養成し、環境フェアなどにおいて家エコ診断を行い、家庭やオフィスでの省エネ活動を推進しました。文化分野においては、関宿を対象とした伝統文化の継承、ユニバーサルデザインのまちづくりの提案を行い、また、文部科学省が推進している小中高校でのユネスコスク

ール活動の活性化を図りました。健康(福祉)分野においても成人病や癌を防ぐ健康生活へのアドバイス、食生活の改善、高齢化社会を元気に過ごす提言などを行いました。特に、三重県と亀山市民健康福祉部との協働による「暮らしの安心・安全を守る地域医療を考える」をテーマに講演会とシンポジウムを開催し、鈴木英敬三重県知事からの挨拶、櫻井義之市長、佐々木孝治三重県健康福祉部次長、伊藤正明三重大学附属病院長、今井俊積亀山市民立医療センター院長、竹村洋典三重大学医学部教授をパネリストとして迎え、みんなで守る地域医療について真剣に考えました。

平成26年度の「亀山市民大学キラリ」は、これまでの実績とノウハウを基に、次のようなさらなる発展を遂げます。

(1) 亀山市民が名実共に世界一の環境先進都市となるべく、亀山の素晴らしい環境を守る環境人材を育成し、(2) 次世代を担う子供たちがユネスコ活動について理解し、関宿に代表される伝統文化の継承者として活躍できる文化人材を育成し、(3) WHOに加盟している亀山市民が長寿社会を健康に楽しく生きるための社会創りに貢献すると同時に、南海トラフの大地震に備え、命を守るアドバイザーを育成します。また、亀山市民の自然環境、人文社会的状況、幸福度、エネルギー、産業、防災、健康・福祉、文化遺産、外国人を含む国際化、環境教育など、これまでの成果を網羅した地域学としての「亀山学」を刊行します。さらに、専門家だけでなく、亀山市民による「亀山学II」の刊行も試みます。

本活動報告書は、「亀山市民大学キラリ」の第3号の報告書であると同時に、これまでのかめやま環境文化誌からの通巻第8号となります。亀山市民の公財としての「亀山市民大学キラリ」のさらなる発展のために、亀山市民の皆様からの多くの協力を頂けることを切実に願っています。